

# 職 場 紹 介

福岡県京築県土整備事務所 相島直之

2009年に入庁し、もうすぐ6年が経つ。年齢も26歳になり、入庁当初は事務所や寮で最年少だった私も、いろんな先輩と出会い、たくさんの後輩ができた。今年度からは、京築県土整備事務所へ異動し、新しい環境での仕事も始まった。その中で体験したことや気付いたことを書いていこうと思う。

今年度当初は、初めての異動ということで、事務所の雰囲気慣れることに一生懸命だった。当たり前のことかもしれないが、ほとんどの方と初対面だったため、一から信頼関係を築かなければならない。そう思うと、少しばかり不安になった思い出がある。しかし、赴任してしばらく経つと、少しずつ先輩方とも仲良くさせていただき、徐々に不安がなくなっていったのを思い出す。

6年目とはいえ、仕事の面ではまだまだ、先輩方には及ばない。しかし昨年度まで所属していた田川県土整備事務所で、野球やサッカー、駅伝を一生懸命頑張っていたという経験は負けない自信があった。御存じの方も多いかと思うが、田川県土は部活の熱の入りが半端ない。その田川県土で【みんなで一生懸命頑張ることが楽しい】という感性を育み、また、スポーツのコミュニケーションは仕事にもつながるということを学ばせていただいた。その経験をもとに、京築県土整備事務所で勝手に駅伝部を立ち上げた。

どうせするなら入賞をしたい。その強い思いで田川県土での経験を踏襲し、インターバル走や長距離走など、理不尽な練習を皆に課していった。

最初は嫌われると思った。しかし、京築県土にも田川県土に負けなくらいの真性DMが、驚くくらいたくさんいた。しかも、そのDMの方々は自分より上の年代の方が大多数だ。若手職員と同じ練習メニューを、キツイ顔をしながらも、一緒になってこなしてくれる先輩方には、【感謝】という言葉以外思い浮かばない。駅伝練習がきっかけで、会話が増え、信頼関係もより芽生え、事務所の先輩方・後輩との距離が一気に縮まっていった。仕事でも話しやすくなったり、頼みやすくなったり、全てにおいて良好な関係が形成されていった。

私が気付かされたこと、それは、何かを一生懸命頑張っていたら、それはいつしか【財産】になるということだ。

それは走るのが速いという、表面的なものではなく、それがきっかけで、若いながら事

務所を引っ張っていく経験ができたり、仕事の糧になっていたり、誰かに名前を覚えてもらえることがあったりなど、知らないうちに【財産】になっていることに気付いた。いつの日か、それにふと気付かされるだろう。

私は、願う。若手職員よ、ひたすら元気でバカであれと。そして、謙虚であれと。

筑豊・京築地区は人材確保困難地域と呼ばれている。福岡地区や県南地区を希望する方が多いみたいだ。私は、最初の勤務先が人材確保困難地域でよかったと心から思っている。

最後に私は、強く願う。次の異動先は、福岡地区や県南地区であるということを。笑

【完】